

ユネスコ記念能

第13回

平成28年9月30日(金)

【昼の部】

開演14時(開場13時)

【夜の部】

開演18時45分(開場18時)

於 国立能楽堂 主催 公益社団法人能楽協会



助成:文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業)

【日英二ヶ国字幕詞章付】

競演「同一曲目」「秋の能」「二つのテーマ」でおくる

各流立合公演



第13回 ユネスコ記念能

能楽は650年余の間、時代時代の役者によって守られ磨かれてきました。
 そして平成13年、ユネスコにおいて、第1回「人類の口承及び無形遺産の傑作の宣言」を受けました。
 この貴重な財産を後世に伝える為に本公演を開催し、この度13回目を迎えます。
 各部ともシテ方五流が総出演する立合形式となっており、【昼の部】では全て同じ演目を各流が演じることで、
 流儀の違いを楽しむ「同一曲目五流立合」を、【夜の部】では神・男・女・狂・鬼(能の五番立)に
 基づき、季節を「秋」に統一した選曲で能本来の魅力を味わう「若手競演 秋の能」を上演致します。
 新しい企画のユネスコ記念能を是非お楽しみ下さい。

日時 平成28年9月30日(金) **会場** 国立能楽堂
 【昼の部】開演14時(開場13時) 【夜の部】開演18時45分(開場18時) 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-18-1

入場料金(全席指定)

通し券 (昼の部・夜の部セット)	各部券
S席 10,000円	S席 6,000円
A席 8,500円	A席 5,000円
B席 7,000円	B席 4,000円

障害者割引あり…詳細は能楽協会(03-5925-3871)までお問合せ下さい。

切符取扱 平成28年5月27日(金)
 午前10時より発売開始

- 国立能楽堂 窓口販売のみ
 - チケットスペース 03-3234-9999 (有人対応)
 - カンフェティ★ 0120-240-540 (有人対応) [平日 10:00-18:00]
 - チケットぴあ★ 0570-02-9999 [Pコード 451-111]
- ぴあ全国各店舗 サークルK・サンクス/セブン・イレブン ★印: ネット販売あり

前売りチケット販売期間 5月27日(金)～9月26日(月)

※チケットスペースのみ9月21日(水)までの販売となります。※上記を過ぎてからのチケットのご購入については当日券になります。
 ※販売期間にかかわらず、チケットが売り切れ次第、販売を終了させていただきますので予めご了承下さい。
 詳しくは能楽協会へお問合せ下さい。

～特別チケットのご案内～

もっと身近に能楽を楽しんでほしい! そんな思いから2つの割引制度を導入。

能みたい券

【夜の部】最後の能「紅葉狩 鬼揃」のみ
 ご鑑賞頂けるチケットです。
(前売) 2,500円 / (当日) 3,000円
 19:30頃(夜の部休憩中)よりご案内。
 お仕事帰りの方にもおすすめ!
 能楽未体験の方(=能楽が観たい方)! ご集合下さい!

- ・前売券は8月1日(月)より、「ぴあ」[チケットスペース]にて販売致します。
- ・当日券は残席がある場合のみ、会場にて販売致します。
- ・お席はB席となります。

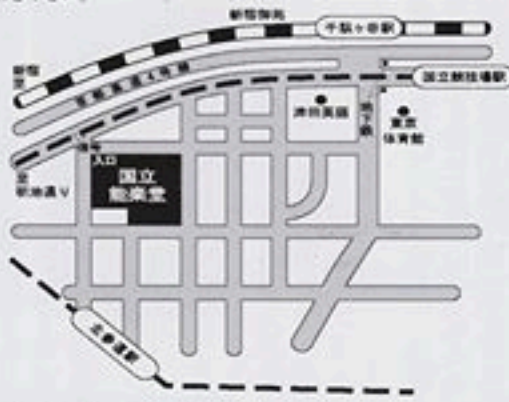
500円・キャッシュバック

当日会場にて、以下の方々へ
 お一人様 500円をキャッシュバック致します。

Foreigner割・・・外国人(外国籍を有する方)
 ティーチャー割・・・教員(在職の小～高校教員)
 ティーンズ割・・・10代の方

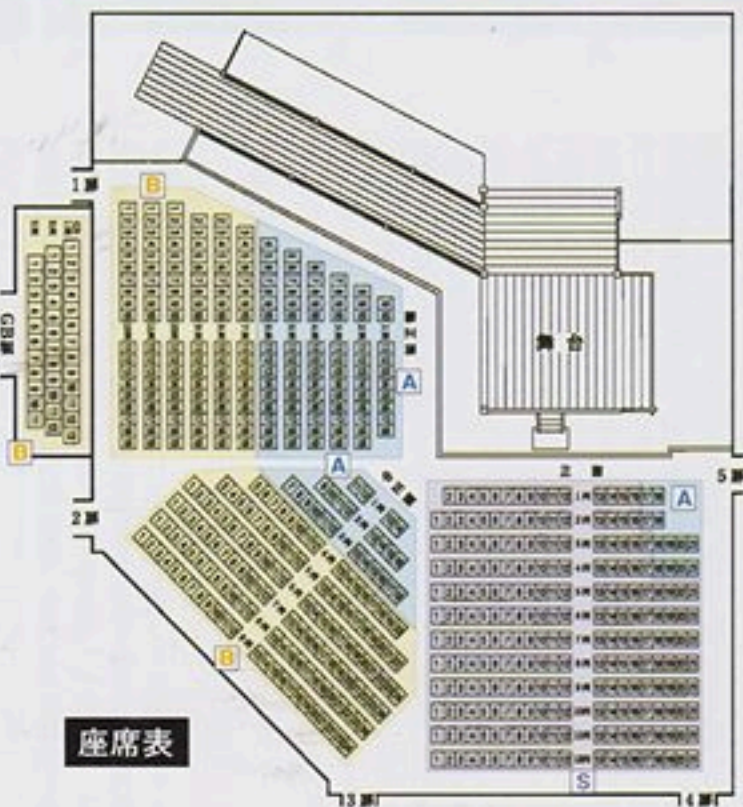
- ・当日、上記が確認できる証明書等をご持参下さい。受付は、会場入口付近となります。
- ・キャッシュバックは、当日会場に来られた方に限ります。
- ・証明書等をお持ちにならなかった方へはキャッシュバックは致しません。
- ・チケット1枚(通し・各部、他割引券問わず)につき、500円をキャッシュバック致します。

※場内での撮影、録音、録画は固くお断り致します。
 ※場内でのアラーム及び携帯電話の電源はお切り下さいようお願い申し上げます。
 ※出演者は都合により変更させて頂く場合がございますので予めご了承下さい。
 ※開場前のご来館につきましては、能楽堂外にてお待ち頂くこととなりますので
 ご承知お下さい。



国立能楽堂 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-18-1
TEL 03-3423-1331

【交通】
 JR中央・総武線「千駄ヶ谷駅」下車徒歩5分
 都営地下鉄大江戸線「国立競技場駅」下車徒歩5分
 東京メトロ副都心線「北参道駅」下車徒歩7分
 ※駐車場がございませんので、お車でのご来場はご遠慮下さい。



座席表

主催・問合せ: 公益社団法人能楽協会
 TEL 03-5925-3871 <http://www.nohgaku.or.jp/>
 協力: 独立行政法人 日本芸術文化振興会

能楽協会では、チケットの販売を致しておりません為、
 上記取扱所にてお求め下さいますようお願い申し上げます。

昼の部

同一曲目五流立合

(開演 十四時)

解説 親世 喜正

玉之段

仕舞 (親世流)
坂井 音雅

地謡
安藤 貴康
武田 友志
藤波 重彦
梅若 泰志

玉ノ段

仕舞 (金春流)
政木 哲司

地謡
本田 布由樹
辻井 八郎
本田 芳樹
中村 昌弘

玉之段

仕舞 (金剛流)
宇高 徳成

地謡
工藤 幸寛
廣田 幸稔
種田 道一
豊嶋 幸洋

玉之段

仕舞 (喜多流)
佐々木多門

地謡
粟谷 浩之
粟谷 充雄
中村 邦生
友枝 真也

寝音曲

狂言 (和泉流)
シテ 小笠原 匡

アド 能村 品人
後見 山下浩一郎

(十四時四十分頃)

休息二十分

能 (宝生流)

(十五時二十五分頃)

海人

子方 和久深太郎
シテ 和久莊太郎

ワキツレ 村瀬 慧
ワキ 福王 和幸
ワキツレ 村瀬 提

大鼓 亀井 洋佑
小鼓 曾和 鼓堂
大鼓 中田 弘美
笛 相原 一彦

アイ 山下浩一郎

後見 前田 晴啓
金井 雄資

地謡
佐野 弘宜 佐野 俊樹
佐野 玄宜 朝倉 俊樹
内藤 飛能 辰巳 満次郎
高橋 憲正 小倉 伸二郎

附祝言

(終了予定 十七時)

【昼の部】

シテ方親世流 坂井 音雅
(さかい おとまさ)



シテ方金春流 政木 哲司
(まさき てつじ)



シテ方金剛流 宇高 徳成
(うたか のりしげ)



シテ方喜多流 佐々木多門
(ささき たもん)



狂言方和泉流 小笠原 匡
(おがさわら ただし)



シテ方宝生流 和久莊太郎
(わく そうたろう)



上演形式の説明

【仕舞】しまい

能一曲の特定部分を地謡により一人ないし複数人で舞う。

※特別な場合を除き、紋付、袴で演じられる。

【立合】たちあい

流儀や芸風の異なる演者が競演すること。

能楽創成期より行われ、芸を競い合い磨く機会であった。

【五番立】ごばんだて

能の正式な演能形式。江戸時代に確立された。

現在では五番立の催しは殆ど行われない。

【昼の部】

【寝音曲】ねおんぎょく

主人(アド)に謡を謡うよう命じられた太郎冠者(シテ)は、酒を飲まないと言えない、妻の膝枕でなければ謡えないなどと注文をつける。主人が自分の膝に寝かせて謡わせ、何度も体を起こしたり寝かせたりしているうちに、太郎冠者は取り違えてしまひ…。

【海人】あま

大臣・藤原房前(子方)は母の追善のため志度の浦を訪れる。そこへ海人(前シテ)が現れ、かつて我が子を藤原淡海の世継ぎとする為、命を賭して龍宮から宝珠を取り返した海人のことを語り、自分こそその海人であり、房前の母だと明かして消える。母の供養をする内、母の霊が龍女(後シテ)の姿となって現れ、舞を舞って成仏を喜ぶ。「玉之段(金春流は玉ノ段)」は龍宮から宝珠を取り返す様子を仕方話で物語るだけではなく、子に対する情愛の深さも見どころである。



【海人】(撮影:亀田裕平)



【紅葉狩 鬼揃】(撮影:前島吉郎)

夜の部

若手競演 秋の能

(開演 十八時四十五分)

解説 親世 喜正

仕舞 (金剛流)

岩船 豊嶋 幸洋

地謡

工藤 寛
廣田 幸純
種田 道一
宇高 徳成

仕舞 (金春流)

清経 本田布由樹

地謡

中村 昌弘
辻井 八郎
本田 芳樹
政木 哲司

ナリ

仕舞 (宝生流)

野宮 佐野 登

地謡

内藤 飛能
辰巳 満次郎
小倉 伸二郎
佐野 玄宜

仕舞 (喜多流)

龍田 友枝 真也

地謡

粟谷 浩之
粟谷 充雄
中村 邦生
佐々木 多門

ナリ

狂言 (大藏流)

鴈磔 シテ 大藏彌太郎

アド 吉田 信海

アド 大藏 基誠

後見 小祝 直人

能 (親世流)

休憩十五分

(十九時五十分頃)

紅葉狩

鬼廻

ワキ 大日方 寛

ツレ 青木 健一

ツレ 谷本 健吾

ツレ 武田 文志

ツレ 佐川 勝貴

シテ 武田 宗典

附祝言

後見

藤波 重彦
武田 宗和

地謡

安藤 貴康
桑田 貴志
古室 知也
梅若 泰志

大鼓 河村真之介
小鼓 鶴澤洋太郎

大鼓 林 雄一郎
小鼓 小野寺竜一

(終了予定 二十一時)

【夜の部】

シテ方金剛流 豊嶋 幸洋 (てしま ゆきひろ)



シテ方金春流 本田布由樹 (ほんだ ふゆき)



シテ方宝生流 佐野 登 (さの のぼる)



シテ方喜多流 友枝 真也 (ともえだ しんや)



狂言方大藏流 大藏彌太郎 (おおくら やたろう)



シテ方親世流 武田 宗典 (ただだ じゆんり)



【夜の部】

「岩船」 いわふね

臨能(初番目物)。祝言性の高い爽やかな演目。勅使が住吉で出会った童子は、宝を積んだ岩船が清き寄せてくると語り、自分がその船の清き手・天の探女であると伝えて消える。やがて龍神が八大龍王とともに金銀珠玉を積んだ岩船を守護して現れ、国土繁栄を寿ぐ。

「清経」 きよつね

修羅能(二番目物)。平家の公遠・平清経を描いた悲劇の物語。清経は豊前の国柳が浦で自害する。泣き伏した妻の枕元に清経の霊が現れ、一門の行く末への絶望から入水に至るまでの経緯を語る。仕舞では死後墮ちた修羅道から晴れて成仏する様子を舞う。

「野宮」 ののみや

髪物(三番目物)。六条御息所の諦めきれない慕情を描いた演目。野宮の旧跡を訪れた僧が出会った女は、光源氏と御息所の悲しい別れを語る。回向する僧の前に御息所の霊が現れて葵祭での車争いの恥辱などを思い出すが、光源氏を懐かしんで舞を舞う。仕舞では火宅(現世)から離れたい胸中を表現する。

「龍田」 たつた

雑能(四番目物)。紅葉の盛りの龍田川で女神が舞う優美な演目。旅の僧が龍田川を渡ろうとすると巫女が現れ、川を渡ることを押しとどめ龍田神前へと導き、神木の紅葉について語る。僧が神の告げを待つうちに龍田姫が姿を現し、夜神楽を奏でて夜明けとともに虚空に消える。

「鴈磔」 がんつぷて

大名(シテ)が鴈を射ようと狙っていると、道通り(アド)が磔(小石)を投げて撃ち落とす。道通りが鴈を拾おうとすると、大名は自分が狙い殺したと主張する。裁人が事情を聞き、大名にもう一度死んだ鴈を射させることにする。果たして大名は鴈を自分の物にすることができるとか……。威張った姿、振る舞いをする大名と一般人である道通りの対比が面白い作品。

「紅葉狩」 もみじがり

切能(五番目物)。戸隠山を舞台とした鬼女退治の物語。戸隠山へ狩りに出た平維茂(ワキ)一行は、侍女(前ツレ)を伴い紅葉狩の宴を催す高貴な美女(前シテ)と行き逢う。誘われるままに酒宴に加わった維茂は、杯を手に舞に見とれる内に眠りに落ちる。夢の中で八幡宮の末社の神が現れ、美女の正体は鬼であると告げて神剣を授ける。目覚めた維茂は、襲い掛かる鬼女たち(後シテ・後ツレ)との激しい戦いの末、ついに鬼女を退治する。